

名古屋版

ツナガリ

<http://mag.whizzo.jp>

2010 10/31

Vol.0 無料

創刊準備号



創刊号11月11日より
毎週 木曜日 発行

創刊にあたって

2010年1月27日、米アップルはタブレット型のコンピューターの製品発表を行った。

「iPad (アイパッド)」と名付けられたその製品は、一見すると、同社の製品である音楽プレイヤー iPod touch を大きくしたただけのものだ。ところが、実際に触れてみると、その全く新しい「体験」は感動すらも覚える。特に、動画やウェブ、そして電子書籍など「閲覧する」端末としてはこの上ない。

4月初旬に米国で発売され、5月末に日本を含む9ヶ国で発売されると、たちまち、タブレット型コンピューターの市場規模を一気に広げてしまう人気となり、米アップルの第4四半期決算では前年比27%増のMacの販売台数389万台を上回る、419万台のiPadを販売したという発表があった。その勢いは、後発ながらもスマートフォンの市場規模を一気に広げてしまったiPhoneを思い起こさせる。

この、圧倒的な「閲覧する」体験をもたらす端末の登場により、日本でもにわかには騒つきだしたのが【電子書籍】の話題だ。各社、様子を見ながらも覇権争いに乗り遅れないようにと、模索をしており、年末から来年にかけても端末やサービスがいくつか出てくるようだ。

そんなブームに乗っかるというわけでもないが、本誌も11月に創刊する。

もとより、名古屋ではそこまでの電子書籍の熱気を感じる場面は多くはない。やはり、都内と比べると一歩引いた感じがある。ところが名古屋は、今回の発行に協力を頂く「ツイッター名古屋交流会」のような、ツイッターを通じたビジネス交流会やFacebookの勉強会など、ソーシャルメディアのコミュニティがなぜか活発である。

そんな、ソーシャルメディアのコミュニティとともに作る、地元の名古屋とソーシャルメディアをテーマにした雑誌が「ツナガリ」である。



話題になる電子書籍の議論のほとんどが、紙の書籍や雑誌をどう電子書籍に落とし込むか、そして、電子書籍ならではの機能を付加出来ないかという議論だ。または、印刷・出版業界そのものを、どう電子書籍に対応していくかという話である。

おそらく、そのような議論も必要なのだろうが、「ツナガリ」のめざすところは全く違うところにある。

今回、電子書籍のフォーマットとして採用したのはEPUB（イーパブ）と呼ばれる形式である。日本では聞き慣れないが、米国では標準となりつつある形式だ。オープンな規格であるため、ライセンスなど要らずに個人でも制作が可能であり、制作コストも比較的安価である。また、配信にはPodcast（ポッドキャスト）という技術を使うことで、制作と配信インフラのコストはかなり抑えることができる。

つまり、紙の書籍や雑誌を意識することなく考えると、制作と配信インフラが極めて安価になるため、ブログやツイッター、Ustreamといったソーシャルメディアと同じように捉えることができるのである。

インフラコストが無料に近くなることで、誰もが情報を発信出来るようになったことでソーシャルメディアは成り立っている。電子書籍もインフラが整いきってはいないが、同じようにインフラコストは無料に向かっている。そこで、「ツナガリ」では、時代を少しだけ先取りして、誰もが雑誌づくりに参加して発信することができる、ソーシャルメディアとしての電子書籍をめざしたいと思っている。

まだ、日本の電子書籍がどのような方向へ向かっていくか、不確定な部分は多い。しかし、誰もが電子書籍を出すことができる、よりソーシャルメディアに近い方向へ向かうことは間違いがないだろう。

少しだけ、時代を先取りした「ツナガリ」。実験的な部分も多いが、ぜひ、参加しながら楽しんで欲しい。



名古屋人の底力

日本国際博覧会（愛・地球博）から5年。一時期は、「名古屋は元気だ」などと言われていたが、リーマンショックに始まり、トヨタの品質問題などによる名古屋経済への影響は大きい。

10月29日、トヨタ自動車グループ主要9社が収益を改善し、2010年4～9月期の連結決算で最終増益になったという発表があり、復調の兆しも見えるが、9月に終了したエコカー減税の追い込みなどの影響もあったと思われるので、まだまだ先行きは不透明な部分も多い。

そんな、もどかしい経済状況のなかで名古屋人が大人しくしているかといえ、そうでもない。

8月から約2ヶ月間開催された国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2010」は10月31日にいよいよ閉幕を迎えるが、目標入場者数30万人を大幅に越え、50万人を突破。最終的には55万人を超える可能性もあるとのこと。大幅な予算削減で、開催を危ぶまれたこともあったが、多くのボランティアなどに支えられての大成功だ。

また、全国的には知られていないかもしれないが、名古屋市議会は揉めている。市民税10%減税を公約として当選した河村市長に市議会が強く反発し、なかなか減税が進まない。そこで、河村市長が中心となり、名古屋市議会の解散請求（リコール）署名集めが行われていた。ただし、この署名はハードルが高く、

1ヶ月という短い期間に有権者の約5分の1にあたる36万5795人の署名が必要とされていた。短期間なうえ、ルールが厳しく無効票も多く出るらしい。前例的に無理だろうと言われていた署名集めだが、大方の有識者の予想を裏切り、集まった票数は46万5594人。誰もが驚いた。

スポーツでも中日ドラゴンズがリーグ優勝し、クライマックスシリーズを制して日本シリーズ進出を決めた。名古屋グランパスも残り7試合あるが8点差をつけて首位を独走中とリーグ初制覇に向けて奮闘中。

意思表示が下手だなどとも言われることもあるが、名古屋人はあまり感情を外に出していかない傾向がある。野球やサッカーに対しても、外から見ると市民は盛り上がっているのかどうか見えにくいかもしれないが、内心は大喜びである。

また、名古屋人はビジネスにおいては排他的なイメージがあるかもしれない。外からやってくると名古屋のマーケットは苦戦するとも。外からの人を受け入れないわけではなく、やや慎重であることは確かだ、ただ、一度受け入れてもらえると長く付き合える関係になれる。人と人のつながりを大事にするところがある。

そんな名古屋だからだろうか、全国に先駆けてローカルなツイッターのコミュニティが立ち上がり、9ヶ月で2300人を超えるユーザーが集まった。しかも、勉強会やセミナーなどのリアルなイベント

もコミュニティを通じて積極的に行われている。参加者はビジネスユーザーも多く、このもどかしい経済状況を打破出来ないかという想いも伝わってくる。

今回、「ツナガリ」創刊にあたり、このコミュニティに協力をして頂けることになった。そこで、次ページにて、コミュニティの運営者にお話を伺ってみた。

Interview

ツイッター名古屋交流会 #twiNAGOYA

朴 寅鎬 代表

金江 宏幸 幹事

Profile

朴 寅鎬 (ぱく いの)

カムサ株式会社 代表取締役

Twitter : @tigerpark

中小企業のトップリーダーのあり方や人材育成、社内風土の活性化、企業再生やホームページ、IT活用の実践的指導の経営コンサルタント。

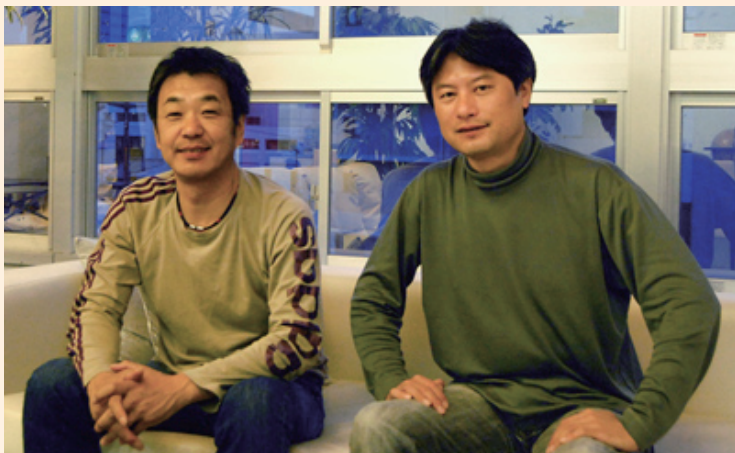
金江 宏幸 (かなえ ひろゆき)

エーシーネットワーク株式会社 代表取締役

Twitter : @hirogonEB

名古屋でヨガスタジオ、WEB コンサル、翻訳、英会話スクール経営。人と人を結びつけるビジネスコーディネーター。

「ツナガリ」の創刊にあたり、ご協力を頂けることになったツイッター名古屋交流会 (<http://twinagoya.ning.com/>)。ツイッターを通じてのビジネス交流、文化交流を目的としたローカルなコミュニティとしては国内でも最大規模である。本コミュニティの協力があったからこそ、本誌の発行に踏み切れたと言える。そこで、創刊にあたり、会の代表の朴 (ぱく) 氏と金江氏にお話を伺った。(写真 左：朴氏、右：金江氏)



—— ツイッターはいつ頃から始められたのですか？

朴) 2008年5月に始めたんですが、面白さが分からず、すぐに止めてしまいました。

金江) 2009年7月にアカウントは作ったんですが、他人のツイートを読むだけでフォローとかはしていなかったんです。最初はそういうものだと思っていました。本来の使い方ではないですね (笑)

—— そんなお二人がツイッター名古屋交流会を立ち上げるきっかけは？

金江) 朴さんが代表をされている愛知中小企業家同友会のIT研究会では、講師を招いて勉強会をすることがあります。そのIT研究会で2009年末に行った勉強会がきっかけですね。

朴) IT研究会で行った、ツイッターの話が面白く、もう一度活用してみようと。

金江) 1月にはサイトをオープンしていたのですが、2/3に記者会見を行いました。ちょうど、ツイッターが勢いに乗ってきた頃だったので地元の中日新聞や朝日新聞が取り上げてくれました。また、一週間後には中京テレビが取材を行ってくれました。

朴) 2/19に伏見の韓国料理屋さんで最初のオフ会をやったのですが、そこにたくさんの方が参加してくれて驚きました。

金江) 40人くらいを見込んでいたのですが、最終的には60人くらいの参加者になり、会場の関係でお断りする人もいたほどでした。そこで、急遽、3/4に2回目のオフ会を開くことになりました。

—— ツイッター名古屋交流会の参加者はビジネス目的の方が多いのでしょうか？

朴) そうですね。ツイッターらしくゆるい雰囲気はありますが、ビジネスに活用出来ないかと期待して参加している人が多いかもしれません。

金江) 集まってくれた方は、企業経営者をはじめ、大企業の社員さんから、学生、主婦と多彩な顔ぶれでした。普段は経営者の集まりによく出ているのですが、これだけバリエーション豊かな人たちと交流できる機会ができてとてもよかったです。オフ会では、ほとんどの方が名刺交換に夢中になってみえたので、料理が大量に余ってしまうほどでした。そういった意味では、新しい人脈開拓を期待している方も多かったと思います。

朴) 中京テレビの番組でツイッターのビジネス利用を取り上げて、ツイッター名古屋交流会の立ち上げを取り上げて頂いたので、余計にビジネスに対する期待を持って頂いたかもしれないですね。

金江) モノを売りたい、商品をアピールしたい、ブログへ誘導したいということツイッターへ期待して、参加している人も多いと思います。

—— 2月の記者会見から、およそ9ヶ月で2,300人を突破しました。これは、予定通りですか？

朴) いや、全く想像してなかったんですよ。最初は、毎月30人くらいで集まって意見交換しながら呑もうかと話していたのに、予想以上の反響に驚いているんです。

金江) mixiでグループを作って、5年間で100人とか150人とかというのを経験しているので、余計に驚きました。mixiを経験しているだけに、ツイッター

の凄さを感じています。

—— サイト内でのグループの活動や、オフ会などのイベントではお二人以外の方が積極的に協力して動いてくれているのを拝見していますが、最初に協力者を募ったりなどしたのでしょうか？

金江) 本当は中小企業家同友会のメンバーを巻き込んで、立ち上げたほうが良かったのかもしれないのですが、全く声をかけたりしてないんですよ。逆に同友会のメンバーは新聞で知ったという人も多かったです。

朴) 本当に、協力者は最初は全くいなかったですね。いまのアクティブユーザーは、最初のオフ会やツイッターの初級セミナーに生徒として参加してくれた人たちです。みなさん、ツイッターで知り合った人ばかりです。

金江) その中で、今回の電子書籍の企画もそうですが、Ustream（ユーストリーム）の番組の企画なども出てきて、地元のUstreamスタジオからも協力をしてもらいながら始まっています。そのような企画もユーザーから出てくるので面白いですね。

—— 全国の同様の交流会に比べても名古屋は会員数が抜きん出ていますが、なぜでしょう？

(続きは次回の創刊号にて)



名古屋めし

Wikipediaによると「名古屋めし」という言葉は、外食チェーンの株式会社ゼットンが、東京で名古屋料理の提供を始めたさいに、グルメ情報誌が「なごめし」という呼称で紹介しようとしたところ、ゼットンの代表取締役社長をしていた稲本氏がストレートに「名古屋めし」のほうが良いのではないかと提案し、採用されたものだという。「名古屋めし」という表現は東京を中心に広まった呼び方のように、地元の名古屋で使われるようになったのは後のことという。

たしかに、「名古屋めし」って言われて人気らしいよ、というような認識である。どこか、他人事。

名古屋の食文化は、独特だといわれる。赤味噌に代表される濃い味付けも多いが、慣れると別に濃いという感じはしない。普通だ。

食文化に限らず、東と西の両方の文化が入ってくるのが名古屋だ。それを両方取り入れ、ひと捻り加えて独自発展したものが名古屋の文化になっている。ただ、ときに捻り過ぎている場合があるので要注意ではある。

そんな、東京中心に広まった「名古屋めし」。一体、外からはどう見られているのか。goo ランキングにあった名古屋に行ったら食べてみたい「名古屋めし」ランキングを見てみると、1位「味噌カツ」2位「ひつまぶし」3位「きしめん」4位「手羽先」5位「天むす」となっていた。

個人的にはきしめんがそんなに上なのかという感想。人に勧めるときは、赤味噌が苦手な人もたまにいますのでハズレが少ないと思っているのは手羽先なのだがどうだろう？

goo ランキング	
名古屋に行ったら食べてみたい「名古屋メシ」ランキング	
1	味噌かつ
2	ひつまぶし
3	きしめん
4	手羽先
5	天むす
→6位以降を見る	
goo (C) NTT Resonant Inc. All Rights Reserved.	

前項の goo ランキングは、外から見て食べてみたいというランキングだった。では、地元の人に聞いたらどうなのだろうか。事前にアンケート行ってみた。名古屋および中部地区（愛知、岐阜、三重、静岡西部）の方から挙がってきたのは、味噌おでん、味噌カツ、味噌串カツ、きしめん、手羽先、あんかけスパ、スガキヤラーメン、ひつまぶし。と幅広い。この中で多かったのはあんかけスパとスガキヤラーメンだった。どちらも、上記の goo ランキングにないのが面白い。しかも、スガキヤは固有名詞なような気が・・・。

本号でインタビューを行ったツイッター名古屋交流会の朴さんから、あんかけスパの美味しいお店を紹介してもらった。

スパゲッティハウス シェフ 名駅西店

<http://ggyao.usen.com/0002106640/>

ここは、卵を敷いた鉄板に乗ったあんかけスパが食べれるとのことで、有名なヨコイのあんかけスパよりももう少しスパイシーな味のこと。ぜひ、今度お邪魔したい。ちなみに、朴さんは北区にあるお店を最員にしているよう。

YouYube 動画：あさり、イカ、エビなどが入ったシチリア

<http://www.youtube.com/watch?v=Izkdw5AOjHY&feature=youtu.be>

その他のあんかけスパ派な方。

名古屋と言えば、手羽先とかひつまぶしが真っ先に出てくるのですが、全国的にはそれほど有名では無いものの、愛されている料理として「あんかけパスタ」をオススメします。

あんかけパスタの名店は色々あるのですが、メジャーどころで錦にある「ヨコイ」を一押しします。

昭和の空気が流れる店内にピリ辛のあんかけパスタ。

名古屋に来たら、是非一度は食して欲しいです。 (@ryoterm)

結婚直後、千葉に数ヶ月住んでいたことがあります。スーパーでたまたま見つけた「ヨコスパ」のレトルトソースを買い込んで、夫婦二人で「名古屋の味」を思い出しながら食べた思い出があります。もちろん「ヨコイ」もいいですが、「チャオ」「サバラン」いずれもおいしいあんかけスパが食べられます。 (@sorairo_ramune)

あんかけスパゲッティで僕が世界でいちばんだと思ってるのは、新栄の楽楽です。 (@tp_asf)

MAP: <http://bit.ly/ck6jll>

あんかけスパは、私も近所に好きなところがあるのですが、同じあんかけでもお店によって味が違ったりするので、みなさん好みがありそうです。県外の方からは、味が想像出来ないとも言われますが、ピリ辛のあんかけをスパゲティに絡めて食べるというものです。



さて、もう1つ人気の高かったスガキヤラーメンについても紹介。

名古屋発祥魚介系とんこつラーメン！
名古屋をはじめ各地に展開するスガキヤ(すがきや)で食べられます。
リーズナブルで懐かしい…これも名古屋の味(>_<) (@eurocka)

子供の頃から食べている、そうるふーどです。県外の人からもよく聞かれる隠れた名古屋めしだと思っています。

最近、赤タンタンメンがお気に入り。
(@kids_dt)

一ヶ月に一度は食べたくなります
(@yuna122)

昔からこのラーメンは好きなんですよ。
よく、デパートの一番上の階にあって食べたのを思い出します。
小さい頃です。で、当時は同じフロアにレコード屋さんもあって、食べた後によくレコードを買ってもらったような思い出がありますね。(Wangmohさん・アーティスト) (@WANGMOH)

スガキヤはリーズナブルなので中学生のときとかに友達と行っていたのを思い出します。スガキヤと言えば、先割れスプーンのイメージがありますね。

さて、この「名古屋めし」アンケートはもう少し続けてみたいと思います。ぜひ、教えてください！

名古屋めしと言えば？

—投稿する！ <http://bit.ly/9D7Xgy>

※また、今回コメントを紹介させて頂いた方は、後ほどポイントを付与致します。少々、お待ちください。

11月11日創刊！ 毎週 木曜日 発行

「ツナガリ」

今回、創刊準備号として発行した「ツナガリ」。
読者からの寄稿や投稿を取り入れて、11月11日より毎週木曜日の発行を予定しています。

購読の仕方は、専用サイトより無料ダウンロードして頂くか、「無料購読」を行う方法があります。

「無料購読」をしていただくと、次回からはサイトに訪問しなくても自動的にパソコンに配信されてきます。

(無料購読は iTunes のインストールされたパソコンにて行ってください)

今後、ツイッターなどのソーシャルメディアの話題や地元名古屋の話題を中心に、音楽の話題や電子書籍の作り方や運営の仕方などのノウハウも取り上げていく予定です。また、すでに寄稿も頂いておりますので、さまざまな話題を取り上げていこうと考えています。

※寄稿して頂いたものやアンケートなどの投稿が本誌により採用された場合は、ポイントの付与を行います。詳しいご案内は、専用のサポートサイトにてご案内していきます

「ツナガリ」

ソーシャルメディアと名古屋をテーマにした電子書籍の週刊マガジン

<http://mag.whizzo.jp/>

※無料購読は iPad、iPhone などから行えません。お手数ですが、パソコンより登録をお願いします。

制作：Whizzo Production

<http://whizzo.jp/>

協力：ツイッター名古屋交流会

<http://twinagoya.ning.com/>

